

BBL NEWS

Bilingual Business Leader Program



立教大学 経営学部 国際経営学科
Department of Global Business, College of Business, Rikkyo University

第14巻第2号(通算39号) 2021年3月22日発行 <http://cob.rikkyo.ac.jp/>

英語教育と経営教育の融合を目指した 15 年間 ～第 2 幕の始まり～

BBL 主査 松本 茂

経営学部が創設されるにあたり、故・白石初代学部長から BBL プログラムの主査を拝命されて以来 15 年が経ち、この度定年退職のために退くことになりました。この 15 年間にわたり、学外の関係者の皆さま、学生、職員、そして同僚など数多くの方々に支えられながら、なんとかここまで走ってくることができました。深く感謝申し上げます。

「全学的な英語教育だけでは不十分」「学部内の英語プログラムが専門科目の『下請け』になっている限り成功しない」という考えのもと、ゼロからプログラムを開発し、一定の成果をあげることができたと自負しております。

故・白石先生が BBL を国際経営学科のコア・カリキュラムにくださったことと、私自身も経営学部の専門科目を受け持ったことがうまくいった要因だと感じています。

単に英語を学ぶプログラムではなく、「英語教育と経営教育の融合」を理念としてかかげ、英語で講義される経営学の専門科目の授業を無理なく受けられる英語力を約 2 年間で養成することを目指してきました。専門の授業を受けるにあたり必要となるスキルを、経営に関する内容を題材として、英語で学び、議論し、発表し、レポートを書くといった活動を通して伸長するプログラムを開発・実践しました。その結果、グローバルなビジネス・シーンで英語を使って活躍する人材を輩出できたと確信しています。

BBL の舞台はこれから第 2 幕となります。演出者（主査）は Gene Thompson 准教授です。これまで以上の成果を残してくれるものと期待しております。引き続き BBL にご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



Message from the New Program Director

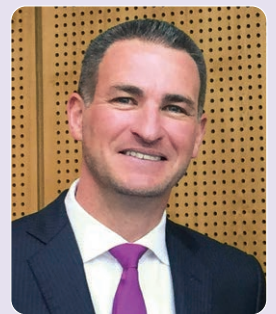
BBL 新主査 Gene Thompson

I am honored to be appointed as the Director of the BBL Program. I would like to start by expressing my gratitude and deep respect to Professor Matsumoto. His vision and leadership have been the driving forces in helping the BBL to become an integral part of the College of Business. We are recognized as an innovative program due to our focus on the integration of language and management content in educating our students to become human resources that can actively contribute towards global business.

Professor Matsumoto developed the BBL to be heavily informed by research and student feedback. He encouraged all team members to integrate their research efforts into the improvement of the BBL, and has supported our students to take leadership in improving our program as Student and Teaching assistants. Thanks to his vision, the BBL has informed professional practice in Japan, and beyond, via research findings and best practice initiatives.

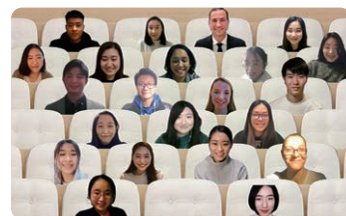
I joined the College of Business in 2012, and as a member of the BBL team I am proud to say that during the past nine years we have constantly made improvements to our courses and the program. In these efforts, we have been strongly supported by people outside the university, as well as by students, staff, and colleagues. I would like to express my gratitude as it has allowed the BBL program to be successful in implementing integrated-skills learning and preparing students for specialized study.

The BBL will continue to develop based on the core principles upon which it is founded, which are integrating language and management education while developing students to take specialist classes via English. On behalf of the BBL team, I would like to ask for your continued support as we continue to develop the program and further strengthen the College of Business as a leading business management school in Japan.



三菱ふそうトラック・バス株式会社に英語でビジネス提案

Business Project (BP) は、国際経営学科の「バイリンガル・ビジネスリーダー・プログラム (BBL)」の集大成ともいえる3・4年次生を対象とした英語で開講される企業連携授業で、立教大学で学ぶ留学生とともにチームを組んで企画から提案までを行うことで、実践的なグローバルビジネスの疑似経験を積み、専門性を高め、多様な人々と協働する力を養います。2020年度秋学期の連携協力企業は三菱ふそうトラック・バス株式会社。コロナ感染症の影響によりオンラインでの開講となりましたが、国際経営学科生の他にも、立教大学「Global Liberal Arts Program (GLAP)」の学生と、ベトナムのForeign Trade University (FTU) の学生とともに多国籍チームを結成し、社員研修プログラムを提供する「ふそうアカデミー」のデジタルラーニング戦略を英語で提案しました。受講生の一人、国際経営学科3年次生柳 晏貴子さんに、履修をした理由やプロジェクトの難しさ、最終プレゼンの様子などを報告してもらいました。



●ファイナル・プレゼンテーション集合写真。
柳さんは後ろから2列目左端。

国際経営学科 3年次生
柳 晏貴子さん
(クラーク記念国際高等学校卒)

— なぜ履修を決めましたか？

自分のビジネスの知識をアウトプットしてみたいと思い履修しました。また、秋学期もオンライン授業になり同級生や先生と話す機会が減りがちなため、グループワークができる授業を取りたかったというのも理由の一つです。

— 実際に履修してみてどんな感想を持ちましたか？

全面的にオンラインでの授業だったので、クラスメートやクライアントに会って会うことができず残念でしたが、毎週先生や Student Assistant (SA) からフィードバックをもらうことができ、常に向上心を持って取り組みました。また、協力企業 (クライアント) である三菱ふそうの方々に参加してくださるセッションも数回あり、社員の方に直接質問したりフィードバックを頂いたりしたことで最後には満足のいくプレゼンをすることができました。

— 何が難しいと感じ、そこから何を学びましたか？

今回は国際経営学科の学生に加え立教の GLAP とベトナムの FTU の学生が参加し、学部や国境を超えたグループワークとなりました。全てオンラインでグループワークをするのは容易ではなく、特にグループ内での意思疎通が上手くいかず悩む学生がいました。オンラインのミーティングやチャットの会話では阿吽の呼吸というのは通用しないので、自分が思う以上にはっきりと意見を伝

えることが大切だと再確認しました。また、ベトナムでは通常のお正月ではなく旧正月をメインにお祝いするそうで、大晦日の夜にミーティングをしようとした提案された時にはびっくりしましたが、お互いの文化や生活を説明したりするうちに交流が深まり、最後は仲良くプロジェクトを終えることができました！

— 企業へのプレゼンで工夫したことや上手くできたこと、達成感などを教えてください。

オンラインの社員教育プログラムの改善点を提案するという内容だったので、まずは「改善が必要な理由」をはっきりと述べることを意識し、海外の論文や調査結果などを用いながら説明したことでクライアントに納得して頂くことができました。また、オンラインで行うプレゼンではジェスチャーや表情などを工夫して伝えることが難しいので、できるだけシンプルでわかりやすい構造のスライドを作成したことも良かったと思っています。

— 修得したスキルを今後どのように活かしていきたいですか？

この授業を通して、オンラインでのコミュニケーションやプレゼンスキル、情報を集める調査スキルなどが身につきました。今後ビジネスの現場が今以上にオンラインへ転換されていくと思いますが、どのような環境でも安定的にスキルを活かすことができる人材になることを目指していきたいと思っています。また、あと1年国際経営学科での学びが残っているので、今回のグループワークの経験を活かしさらに多くのビジネスの知識や体験を得たいと思っています！

ESP 人材サービス分野において豊富な職務経験を有するゲストスピーカーをお招きして特別講義

2020年11月25日、BBLプログラム2年次生対象科目であるESP (English for Specific Purposes) において、社員研修のスペシャリストでもあり、特に人材サービス分野において日本企業と外資系企業で豊富な職務経験をお持ちの吉垣美里氏をお招きし、英語でゲストレクチャーを実施しました。受講生の一人、国際経営学科2年次生原田 玲奈さんに、その内容等について報告してもらいました。

国際経営学科 2年次生
原田 玲奈さん
(千葉商科大附属高等学校卒)

コロナ禍のためオンラインでの実施でしたが、インタラクティブな形式で進めてくださり、ご自分の豊富な職歴をもとにお勤めになっている企業の特徴や社会人に必要とされるスキルなどについて詳しくご説明いただきました。

大学に入るまで留学経験のなかった吉垣氏ですが、神田外語大学に入学してから英語のカリキュラムを通して、そして合計8年間に渡る留学経験を経て、現在の流暢な英語をマスターされたそうです。その後人材サービス業界を中心に日本企業と外資系企業で職歴を積まれています。

今回の講義では、その豊富な経験をもとに、日本企業とグローバル企業の違いについてお話くださいました。まず手始めに吉垣氏は、「日本企業とグローバル企業にどんなイメージを持っていますか？」と私たちに質問を投げかけられ、グループ毎にブレイクアウトルームに分かれてディスカッションする時間を設けてくださいました。ディスカッション終了後は全員メインルームに戻り、それぞれのグループで話し合った内容を発表しました。「日本企業は終身雇用など変化が比較的に少ない一方、グローバル企業は変化のスピードが速い」というイメージを多くの学生が抱いているようでした。これに対して吉垣氏は、日本企業には献身的、詳細、礼儀正しいなどの特徴があるとし、グローバル企業にはリーダーシップ、自己完結、フレンドリーなどの特徴があげられると説明してくださいました。

次に「社会人に必要なスキルは何か？」という質問を私たちに投げかけられ、学生からは様々な意見が出ました。吉垣氏はそれらに対してご自分の経験に基づいて一つひとつ丁寧に答え

●オンライン特別講義の様子

てくださいました。そして重要なのは「GRIT (Guts, Resilience, Initiative, Tenacity)、タイムマネジメント、プロジェクトマネジメント、フィードバック、コミュニケーション、責任感」であると説明してくださいました。

最後に、「社会人として大切なこと」を7つ教えてくださいました。

1. メールにはすぐに返事すること
2. 『日経新聞』を毎日読むこと
3. 間違いを恐れないこと
4. 限界を自分で作らないこと
5. 責任感を持ち、自発的に行動すること
6. 常にどうしたら多種多様な人々と交流できるか考えること
7. プレゼンのスキルは私たちの長所であること

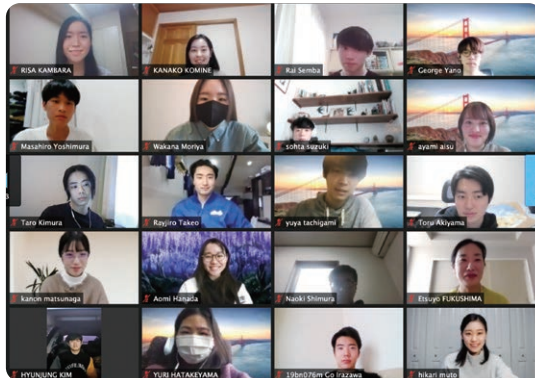
オンライン形式でしたが、主体的に学べる講義をしていただき、私たち学生にとって非常に有意義な時間となりました。

第 24 回 CLUB 900 表彰式をオンラインで開催

2021 年 1 月 27 日、第 24 回 CLUB 900 表彰式をオンライン方式で開催しました。今回表彰の対象となったのは、11 月・12 月に大学で実施した TOEIC® L&R オンラインテストと、過去 6 か月に個人で TOEIC® L&R テストを受験し 900 点以上を取得した学生、計 63 名。2009 年の第 1 回開催以来最も多い受賞者数となりました。

ゲストとしてご臨席くださった山口学部長と TOEIC® の実施団体である一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) の佐藤様よりご祝辞をいただいたあと、受賞者をスライドショーを使って紹介しました。

最後に学生を代表して国際経営学科 4 年次生の小林 光喜さんがスピーチをし、受賞の喜びと教授・スタッフ陣に向けて謝辞を述べました。入学当時の彼をよく知る教授陣たちも彼の成長ぶりに大変感動するとともに素晴らしいスピーチでしたので、今回は特別に全文をご紹介しますと思います。



● CLUB 900 表彰式の様子

国際経営 1 年

小林 詠琳
仙波 来唯
畠山 ゆり
木村 太郎
鳥江 康太
森谷 和奏

経営 1 年

蓮見 彩瑛

国際経営 2 年

藤本 友梨
鈴木 聡太
竹尾 伶二郎
花田 碧未
後藤 小夜
タン ユンハン
佐藤 優佳
前野 翔太
館上 友哉
愛須 彩未
志水 千紘
井良沢 豪
萩原 一晴
井上 茉弥
大拙 美澪
オ ソピン
田丸 瑞花
成田 柁暉
渡邊 早百合
中原 遠歌子
白井 さくら
三瓶 峻
林 永大秀
数木 侑太
志村 直紀

経営 2 年

矢野 謙士
藤田 里佳
吉村 匡裕

国際経営 3 年

小峰 かな子
八木 怜央
草野 紫織
杉山 諒太
西島 朱音
戸上 春佳
岩間 湧大
植田 和真
武藤 日花莉

経営 3 年

田中 香鈴
二瓶 幸生
鈴木 絢土
石原 杏菜

国際経営 4 年

神原 理沙
中口 美穂
小山田 彩華
大江 諒
原口 佳乃子
キム ヒョンジュン
小林 光喜
保科 豪希
前原 澄鈴
浅野 茉耶
籠橋 拓海

経営 4 年

楠 凱斗
田中 理芳
牧野 耕二郎
鈴木 誠史



国際経営学科 4 年次生 小林 光喜さん (神奈川県立多摩高等学校卒)

Good afternoon ladies and gentlemen. I am Koki Kobayashi. It is such an honor to be here and to make a speech as a student who joined Club 900 for

the first time. On behalf of students, I would like to express my huge appreciation to Ms. Fukushima and Mr. Sato of IIBC for being here today, to the Dean and Chair for attending, and to the BBL professors and Ms. Usuki for giving us an opportunity to celebrate our achievement today.

Proud. (pause) I believe this is the right word to describe our emotion right here, right now. If I'm allowed to be completely honest, I have never imagined being able to be here today. I always wanted to be here. I always told myself this was my goal. and I always had this goal in my mind. However, there was a little part of me who said, "You would never achieve that" and "You would never be able to do that." It was such a long journey to come this far. There were a lot of challenges, obstacles and hurdles that I had to overcome during the journey to Club 900. I believe that each of us, everyone has your own story to tell. But today, please let me tell you my story.

Four years ago, when I was one of the freshmen, I barely spoke English. I struggled with expressing my opinions. I struggled with listening to what professors told us in English. I was even struggling with having easy, daily conversations. At that time, English was just one of the subjects that I "had to" study. I even doubt that I wanted to be able to communicate in English.

However, one experience turned things around for me. During my first summer in the university, as part of the BBL Program I went to Australia with Makoto, who is here today, and also Ayaka. Ayaka was even in the same group as me. Over there, I had a tough time having conversations with my host family and understanding what our professors said in the class, as you imagine. However, I was so fascinated by the fact that there was a completely different world, culture, and people outside of Japan. And English, in fact, was what opened my window to that whole new world.

That made me realize that English wasn't one of the subjects that I had to study, English is, rather a fascinating tool to communicate with others and connect with different people from different countries and different cultures.

After coming back to Japan from Australia, my attitude towards English completely changed. I think some of the professors were surprised to see me taking classes very seriously. During this journey of learning, a lot of challenges came to my way. Being consistent is one of the things that I struggled with. Sometimes, the feeling of not progressing in my learning almost overwhelmed me. Despite these challenges, I've come this far because my friends and co-learners always encouraged me to keep studying, the professors always showed me the right direction to follow, and the TOEIC test helped me set short-term goals and check my English level constantly.

That hard time eventually made it possible for me to study abroad in Switzerland, made it possible for me to meet new people from all over the world, and made it possible for me to go out of my comfort zone, learning about new cultures and values, and ultimately made me become a better person.

All these precious experiences made me who I am today. I don't want to imagine what my campus life would have been like if I hadn't learned English. I wouldn't be here, and I wouldn't be who I am today without all the support from my friends, all the encouragement that professors gave me, and the constant motivation, and checking of my English level that the TOEIC tests gave me. Therefore, I would like to finish my speech by expressing my huge thankfulness, on behalf of all of us, to Ms. Fukushima and Mr. Sato and the IIBC, all of the professors here today, my fellow co-learners, and Ms. Usuki for making sure that we could take the test each semester - and celebrate Club 900.

Thank you very much for listening.

Most Improved Award 受賞

CLUB 900 表彰式では、惜しくも 900 点には届かなかったものの、ここ数年間に飛躍的に点数が上がった学生にも、その努力と成果を讃えて Most Improved Award を授与いたしました。

今回受賞した国際経営学科 3 年次生の秋山 亮さんと松永 花音さんに勉強法などについて伺いました。

国際経営学科 3 年次生 秋山 亮さん (立教新座高等学校卒)

この度はこのような賞をいただき大変嬉しく思います。今回この賞をいただくことができた理由は、英語への苦手意識が薄れたからだと思います。私は国際経営学科に在籍していますが入学当時は英語に対して苦手意識が強くありました。特に最初の TOEIC テストでは最後まで問題を読みきれなかったことを今でも覚えています。その中で苦手意識をなくすことができた最大の要因が BBL プロ

グラムでした。特に EAP2 や ESP では、英語の読み書きはもちろん、プレゼンテーションを数多く行うため、自分の苦手意識が段々となくなっていったと感じます。今後もさらに英語学習に取り組み、来年は CLUB 900 入りできるよう頑張ります。



国際経営学科 3 年次生 松永 花音さん (翔凜高等学校卒)

初めて TOEIC を受験した時には、問題の解き方も時間配分もよく分からず、今よりかなり点数が低かったのを覚えています。まずは問題構成を理解することから始め、自分の勝負ポイントを決めました。私の場合はリスニングが得意なので、重点的に勉強して点数を確実に取れるようにしました。正直、参考書での勉強はほんの少ししかしておらず、EAP の授業で意識的に正確に英語を聞き取り、

話すことに 1 番注力しました。特に EAP2 では全て英語を用いて行う必要があったため、リスニング・ライティング両方の力を大きく伸ばすことができたと思っています。今振り返れば、到達目標を定め自分に合った勉強法で努力を重ねることが大事だと感じています。



卒業を迎える 4 年次生 — BBL プログラムを振り返って

国際経営学科 4 年次生 保科 豪希さんのコメント (立教新座高等学校卒)



私の在学 4 年間に於いて、英語力の向上は大きな成果のひとつです。英語の資料に常に触れつつ、BBL ではライティング、留学準備としてリスニング、留学中はスピーキングというように、その時々で必要と感じた分野に重点的に取り組みました。外資系企業でのインターンといった新たなステージではまだまだ力不足を感じますが、4 年次に TOEIC970 点を取得した際には大きな達成感を得られました。

また、立教大学国際経営学科と留学先（オランダ、ラドバウド大学）の 2 大学で学んだ経験から、BBL のカリキュラムは国際標準でデザインされていると感じました。海外の大学で読まれているテキストを理解する、知識を応用してビジネスプランを立案する、プレゼン手法を駆使する、大学生として適切な文書作成のルールをマスターする、などのスキルは、ビジネスの知識や創造力と同じくらい、どれも「経営学部卒」には当たり前求められる。言語と並んで留学時に大きな壁となるこれらのスキルを 1、2 年次に段階的に習得したことは、その後の活動における大きな自信となりました。

変化の絶えないビジネスの世界においてこそ、この学科で培った普遍的な能力は大きな武器になると確信しています。未知に挑戦し結果を残すビジネスパーソンを目指します。

国際経営学科 4 年次生 浅野 茉耶さんのコメント (立教女学院高等学校卒)



「なんとなく格好良い」という動機で国際経営学科を選択した私は、入学当初、周りの英語力の高さに圧倒されました。教授の言葉が聞き取れず、課題をこなすことで精一杯…。そのような日々の中で学科の選択を後悔することもありました。しかし、ある時 EAP1 の授業の中で、自分では想像もしていなかった程の高評価を頂いたことがありました。読み書きやプレゼンのスキルが確実に伸びていることに気づき、大きな達成感を感じたことを覚えています。それ以降は、「昨日の自分と比較する」ことを心がけ、楽しんで授業に参加することができました。

学びの集大成として挑戦した Business Project (BP) は、海外に行かずとも留学をしているかのようなものでした。留学生とチームを組み、企業から与えられた課題に取り組む中で、英語力だけでなく、論理思考力や価値観の異なる人々と議論を進める能力など、様々なスキルを磨くことができました。BP の中で味わったやりがいや悔しさは一生忘れることができないと思う程、濃い時間を過ごすことができました。

英語とひたすら向き合う大学生活の中で、4 年前は雲の上の存在であった CLUB 900 がいつの間にか自分の手の内にありました。BBL の授業を通して英語をより好きになった私は、海外で活躍できるような社会人になりたいと考えています。目標を達成できるように、これからも成長を積み重ねていきたいです。